

6. 芸術

《音楽分野》

科目	音楽Ⅰ	単位数	2	区分	選択必履修		
教科書・教材	教育芸術社 MousaⅠ			配当年次	1年次		
授業のねらい・概要							
1. 歌唱活動・器楽実習等の経験により読譜力(楽譜の横方向＝時間の経過)を高める。 2. 主要作曲家とその作品について体系的に学び、芸術作品を愛好する心を育む。							
授業の進め方							
授業内容に必要とされる独自資料をその都度配布、各自所定のファイルに整理すると共に各時間毎に学習記録を作成していく。							
		学習の内容		考査	時数		
前期	4月			中間	17		
	5月	○発声は毎時間「校歌」を歌い、同時に歌詞の定着を目指す。					
	6月	○身近な歌唱教材を分析し、階名・歌詞唱することにより表現力や読譜力を高める。					
	7月	○読譜力の養成として「楽譜の横線(時間の経過)」について学び、リズム実技・聴音・創作を経験することにより楽譜の仕組みを理解させる。					
	8月	○基本的な楽譜を理解し「グループ演奏」ができるようにする。					
後期	9月	○鑑賞教材を通じてそれぞれの時代・国の音楽文化を学ぶ。音楽Ⅰでは「中世・ルネサンス～バロック～古典派」を学ぶ。		期末	18		
	10月	○年末には「日本の音楽的年末恒例行事」を題材とする。					
	11月					中間	17
	12月						
	1月						
2月			期末	18			
評価の方法							
授業の出席状況・授業態度・ファイル整理の状況等を総合して評価する。							
備考							
「音楽Ⅰ」「書道Ⅰ」の2科目から選択必履修							

科目	音楽Ⅱ	単位数	2	区分	選択		
教科書・教材	教育芸術社 MousaⅡ			配当年次	2年次		
授業のねらい・概要							
1. 歌唱活動・器楽実習等の経験により読譜力(楽譜の縦方向＝音の高低)を高めると共に音階や調性・和音(含コードネーム)を学び、音楽の基本的な仕組みを理解する。 2. 主要作曲家とその作品について体系的に学び、芸術作品を愛好する心を深める。							
授業の進め方							
授業内容に必要とされる独自資料をその都度配布、各自所定のファイルに整理すると共に各時間毎に学習記録を作成していく。							
		学習の内容		考査	時数		
前期	4月			中間	17		
	5月	○発声は「コンコーネ50番」を使用し音程感覚・フレーズのとらえ方を体得する。					
	6月	○身近な歌唱教材を分析し、階名・歌詞唱することにより表現力や読譜力を高める。					
	7月	○読譜力養成は「楽譜の縦線(五線と音の高低)」について学び、その音の組み合わせである「音階」や「和音」へと順次展開させる。					
	8月	○基本的な楽譜を自分で理解し「両手で簡単なピアノ演奏」ができるようにする。					
後期	9月	○鑑賞教材を通じてそれぞれの時代・国の音楽文化を学ぶ。音楽Ⅱでは「ロマン派～近代・現代」を学ぶ。		期末	18		
	10月						
	11月					中間	17
	12月						
	1月						
2月			期末	18			
評価の方法							
授業の出席状況・授業態度・ファイル整理の状況等を総合して評価する。							
備考							
「音楽Ⅰ」を履修済みのこと。							

科目	音楽Ⅲ	単位数	2	区分	選択
教科書・教材	教育芸術社 Joy of Music			配当年次	3年次または4年次のどちらか
授業のねらい・概要					
「音楽Ⅰ・Ⅱ」で学んだ知識・技能を基に、器楽実習を中心に音楽力を高める。					
授業の進め方					
課題曲に関しては授業内容に必要とされる独自資料をその都度配布、自由曲については各自設定。各自所定のファイルに整理すると共に各時間毎に学習記録を作成していく。					
		学習の内容		考査	時数
前期	4月			中間	17
	5月	○鍵盤楽器による実習(課題曲・個人)			
	6月				
	7月				
	8月	○鍵盤楽器による実習(自由曲・個人)			
後期	9月			期末	18
	10月	○作音楽器による実習(課題曲・グループ)			
	11月				
	12月				
	1月	○任意楽器による実習(自由曲・個人またはグループ)			
2月			期末	18	
評価の方法					
授業の出席状況・授業態度・実技テスト・ファイル整理の状況等を総合して評価する。					
備考					
「音楽Ⅰ・Ⅱ」を履修・修得済みのこと。					

《書道分野》

科目	書道Ⅰ	単位数	2	区分	選択必履修
教科書・教材	教育図書 『書Ⅰ』		配当年	1年次	
授業のねらい・概要					
書写能力を高めるとともに、書の表現と鑑賞の能力を伸ばす。 ①感性豊かに自分の個性を生かした創造的な表現を楽しく展開しよう。 ②一般生活に必要な実用書（宛名、葉書、贈答用語）を身に付けよう。					
授業の進め方					
教科書及び学習プリントにより、実技を中心に授業をすすめ、各課題で作品を制作する。					
学習の内容					
			考查	時数	
前期	4月	漢字仮名交じりの書（校歌）	中間	18	
	5月	・書写から書道へ、漢字と仮名の調和			
	6月	漢字の書（九成宮醜泉銘、孔子廟堂碑など）			
	7月	・楷書、隸書、その他の書（篆書・行書・草書）	期末	17	
	8月	くれき野祭に向けて作品作製（写経など）			
9月	実用の書				
後期	10月	・宛名書き・はがき・贈答用語などの書き方	中間	18	
	11月	落款作製			
	12月	・篆刻（姓名印）	期末	17	
	1月	創作作品（漢字・仮名・漢字仮名交じりの書）			
	2月	・一年間のまとめの作品を創造豊かに創作する			
評価の方法					
出席状況・学習態度・作品の作製などを総合的に評価する。					
備考					
「書道Ⅰ」・「音楽Ⅰ」の2科目から選択必履修。					

科目	書道Ⅱ	単位数	2	区分	選択
教科書・教材	東京書籍 『書道Ⅱ』		配当年次	2年次	
授業のねらい・概要					
書の基本的な点画、線質の表し方、運筆の方法の習得や書道における表現と鑑賞の活動を通して書を愛好する心情を育てる。					
授業の進め方					
臨書を通して基本的な点画、線質の用筆を繰り返すことによって習得する。学習した楷書、行書の古典を題材とし習得した技法を生かして創作を行う。					
学習の内容					
			考查	時数	
前期	4月	漢字仮名交じりの書（校歌）	中間	18	
	5月	・表現方法・紙面構成・用具用材の工夫			
	6月	漢字の書（1）			
	7月	・楷書、行書の学習	期末	17	
	8月	くれき野祭に向けて作品作製（写経など）			
9月	漢字の書（2）				
後期	10月	・草書、篆書、隸書の学習	中間	18	
	11月	実用の書			
	12月	・絵手紙等の作成	期末	17	
	1月	硬筆の学習（編筆・ボールペンの使い方）			
	2月	・用途による用具の使い方			
評価の方法					
出席状況・学習態度・作品の作製などを総合的に評価する。					
備考					
「書道Ⅰ」を履修済みのこと。					

科目	書道Ⅲ	単位数	2	区分	選択
教科書・教材	東京書籍 『書道Ⅲ』		配当年次	3年次または4年次のどちらか	
授業のねらい・概要					
書の基本的な点画、線質の表し方、運筆の方法の習得や書道における表現と鑑賞の活動を通して書を愛好する心情を育てる。					
授業の進め方					
学習の内容					
			考查	時数	
前期	4月	漢字仮名交じりの書（校歌）	中間	18	
	5月	・表現方法・紙面構成・用具用材の工夫			
	6月	漢字の書（1）			
	7月	・楷書、行書の学習	期末	17	
	8月	くれき野祭に向けて作品作製（写経など）			
9月	漢字の書（2）				
後期	10月	・草書、篆書、隸書の学習	中間	18	
	11月	実用の書			
	12月	・絵手紙等の作成	期末	17	
	1月	硬筆の学習（編筆・ボールペンの使い方）			
	2月	・用途による用具の使い方			
評価の方法					
出席状況・学習態度・作品の作製などを総合的に評価する。					
備考					
「書道Ⅱ」を履修済みのこと。ただし、17年度以前に入学した生徒は、本校教育課程の移行期につき「書道Ⅰ」を履修済みであればよい。					